

北海道札幌

農林大学

八田三郎 様 親

展



丁辰



大阪市西區南堀江通壹丁目  
勝本忠兵衛

る書信々々お見付は成る  
寔情大勢宛をて罷上り  
乃ては定こゝを悉くお察  
た自社の件弄んたる<sup>か</sup>と耳  
こ入り恐縮然も畢竟自分の免  
紙不徳の致し致しお是余更  
沈む苦情は不申も此際恨和  
と欠と云ふは社前途の情  
憂慮の極まる<sup>い</sup>さんおをを  
会社経費と云ふるも今度か  
初めたり故に免陸疑におえ  
お前書かお未故も更面喰  
申し係し多数の人を便申する  
皆々、お情の念を合おは  
任令や其人が如く、午眠あり  
大にあり役立つし他人より社  
さ受け圓滿を欠く者<sup>か</sup>と概小





懐清濁保念出るの雅意は  
かすいから念を極み出す

乃以上る美を極み出す

大来示る隨心林氏を時行

大明寺法を可秘心則一得改

委曲懐取の心極み出す

以而念の法を真念を極み

妙心申出の心極み出す

心宣極申出の時ら極み

念極申出の時ら極み

此年終りの心極み

心極み出す

心極み出す